

# 奄美地域の露地栽培「津之輝」における安定生産のための適正着果量と摘果時期

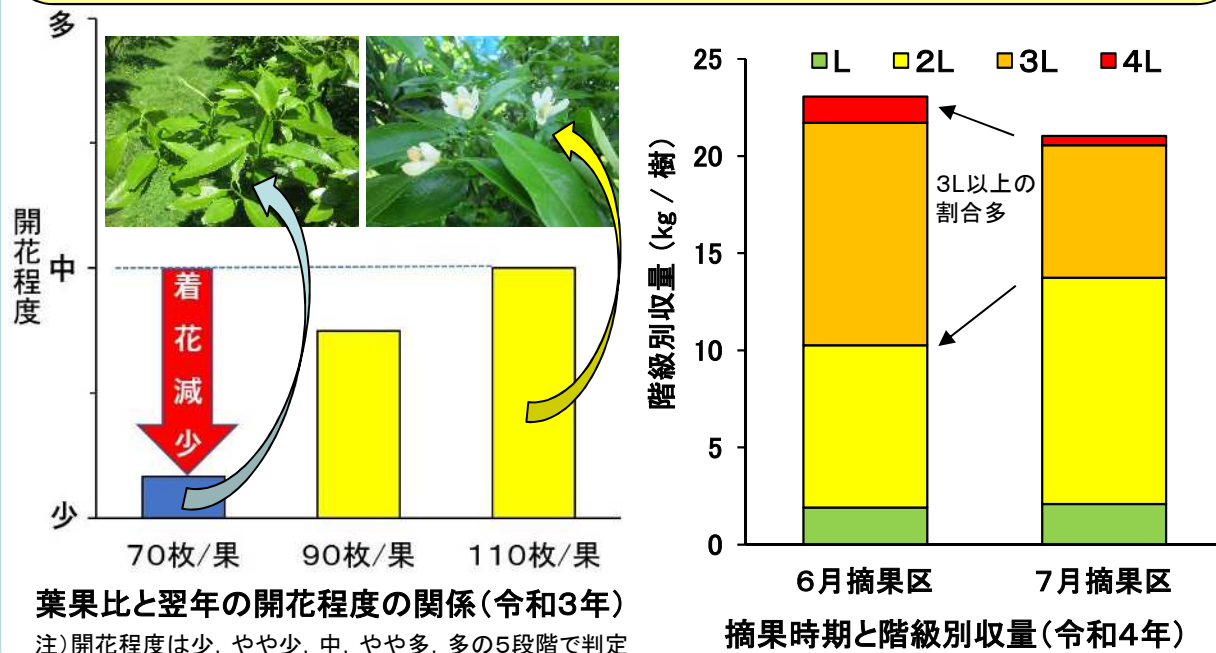
「津之輝」の適正着果量は、収穫時に葉果比90～110枚／果である。6月摘果により裂果発生が少ない大果生産が可能となる

## 背景・目的

- ・奄美地域の「津之輝」は露地栽培で年内出荷が可能のため振興品目として選択
- ・不安定な着果等が課題で、適正な管理法が不明
- ・安定生産のための適正着果量と摘果時期を検討

## 成果の内容

- ・ 収穫時に葉果比70枚／果では、翌年の開花が少なく、隔年結果する安定生産のための適正着果量は葉果比90～110枚／果（20～25果/m<sup>3</sup>）
- ・ 6月に、横径35mm以下の果実を目安に摘果することで裂果の発生が少なくなり、3L以上の収量割合が増加、収量が安定



## 期待される効果

奄美地域における適正着果量と摘果時期の指標として活用



露地栽培「津之輝」の高品質果実・連年安定生産，農業所得向上



○普及対象・範囲:大島地域の露地栽培「津之輝」の生産者

鹿児島県農業開発総合センター  
大島支場亜熱帯果樹研究室 (R04)